

古賀さん、江中さん 初入賞

演算増幅器設計コンテスト

有明高専からは3年連続

大牟田市東萩尾町の有明工業高等専門学校(福島健郎校長)専攻科一年の古賀圭祐さん(21)と大川市新田と電気工学科五年の江中祐貴さん(20)は平成二十五年演算増幅器設計コンテスト・シミュレーションの部に応募し、初入賞を果たした。

同コンテストは応用科学学会主催。全国の高専・大学・大学院生が設計スキルを競うもので、アナログ集積回路設計者の登竜門的存在。全国十二校から六十一人が参加し、十二月六日に東京工業大学大岡山キャンパスで表彰式が行われた。入賞者のほとんどは研究が進んでいる大学院の学生で、高専(電源電圧変動除去比

・出力電圧範囲・位相消費電力・同相入力範囲・直流利得部門)で四位、部門1(スルーレート・五位、江中さんは部門



表彰状を手にする古賀さん(左)と江中さん

2(消費電力・出力抵抗・入力換算雑音・利得帯域幅積・位相余裕部門)で七位となった。

古賀さんは石川洋平准教授、江中さんは清水暁生助教の研究室に所属。昨年も応募したが入賞できず、今回雪辱を果たした。「入賞できると思っていたいなかった。びっくり。ずっと回路設計の勉強をしてきたので、結果を出せて良かった」と古賀さん。江中さんは「昨年作るのに精いっぱい、入賞できなかった。今回の成績はうれしいです」と話した。

また同校専攻科修了生で豊橋技術科学大学大学院一年、松田倫明さんが部門4で一位、部門1で二位、部門3(位相余裕・占有面積・消費電力・同相除去比・電源電圧部門)で四位と、三部門での入賞を果たした。(河野美緒)

古賀さんは専攻科で回路の研究を続ける。半導体の検査機器メーカー「アドバンテス」への就職が内定している江中さんは「この成果を生かして頑張りたい」と意欲を見せていた。